

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

立教経済人クラブ第38回定期総会



2018年6月5日(火)午後5時15分より、毎年恒例となる「立教経済人クラブ第38回定期総会」が日比谷松本楼にて開催されました。総会は第1部の定期総会、第2部の講演会、第3部の懇親会と三部構成で行われました。第1部の定期総会は総務委員長湯浅修氏(S59座・株式会社ブレン代表取締役社長)が司会者となり、総会に先立って物故者の報告と黙とうを全員で行いました。

その後司会者が開会を宣言し、会則により議長に会長である戸井田和彦氏(S50営・学校法人立教学院常務理事)が指名され議事の審議に入りました。審議の順番変更があり、5号議案の役員(案)から行いました。井口一世事務局長(S53・株式会社井口一世代表取締役)より以下の通り説明がありました。

戸井田会長が当クラブ会長を退任し最高顧問になれること。新会長に大塚裕司氏(S51営・株式会社大塚商会代表取締役社長)が就任されること。上原洋一氏(S46院経・上原ネームプレート工業株式会社代表取締役社長)、梅田憲司氏(S50経・三重建材株式会社代表取締役社長)が副会長を退任し顧問になれることをはじめとした、副会長、理事、各委員長の役員改選案が上程されました。(新役員一覧は7月に発行された名簿にてご確認ください)

審議前に戸井田会長より今回の人事の背景について、2018年4月20日より学院の常務理事となったことのご説明と大塚氏推薦のお言葉がありました。

満場一致で承認後、大塚新会長より立教経済人クラブでは勉強会の講師を2度ほどしていることや急なことではあるが精一杯頑張りたいとご挨拶されました。

その後、改めて1号議案の事業報告、3号議案の事業計画が井口事務局長より、2号議案の決算報告、4号議案の予算案が守屋財務委員長(S60営・ソニー生命保険株式会社トップ・オブ・エグゼクティブプランナー)より、監査報告を岩田護監査委員(S56営・岩田護税理士事務所所長)より報告され、こちらも満場一致で承認されました。最後にたった一年間でしたが誠にありがとうございましたという戸井田会長のお言葉で

総会が無事閉会しました。

引き続き午後6時より、第2部の講演会が開催されました。今回は郭洋春立教大学総長より「総長就任にあたって－立教大学の目指すべきVISION－」と題してご講演をして頂きました。(講演内容については2頁にご紹介しております。)

午後7時からは第3部となる懇親会です。会員、ゲスト、来賓を併せ100名を超える参加者となりました。品川総務委員長の司会で開宴となりました。まず戸井田最高顧問より開宴の挨拶として、立教学院の常務理事を務めることにより、立教経済人クラブの会長は現役の社長が良いだろうと考えたこと。そのため、大塚商会社長大塚裕司氏にお願いした。また、郭総長の講演で一番印象深かったのは、「現状のままでやっていったら交代するだけだ。」という部分。カルロス・ゴーンが日産改革の中で言っていたことを思い出した。郭総長と私も一緒に頑張っていくが、和田校友会会長、大塚新会長、経済人クラブ会員とより一層連携を図り郭総長の将来の夢を実現していきたい。また、今年は立教大学が池袋に移転して100周年、2024年が創立150周年となり更なる発展に寄与していきたいとご挨拶をされました。戸井田最高顧問への功績に対し当クラブを代表して昆理事より花束が贈呈されました。

続いてご来賓を代表し郭洋春立教大学総長より、様々な交流の組織のある中で立教経済人クラブは交流が活発であり、立教大学を支え発展させる力になっている。講演会でお話した改革は私ではなく、支えているチームがいるから発言できる。副総長を5名任命し、2名は女性とした。今までは女性副総長がいたことがなく、生徒の54%が女性と言う事を考えればまだ少なかった感じもする。池上岳彦氏(立教大学統括副総長)は学院の企画担当理事もされており、私にとって大きな存在である。体育会の活性化と新座キャンパスの活性化を担当している松尾哲矢氏(立教大学副総長教学運営・キャンパス連携担当)はアイデアが豊富でここまで適任はいないのではないかとと思う。今後その計画をお見せできる

のではないかと考えている。野澤正充氏(立教大学副総長教学運営・大学院担当)大学院とセカンドステージ大学という大学院大学を成長させていく大学にとって重要であり、そこを仕切って頂く。野澤先生は小・中・高・大・大学院と純粋な立教ボーイであり、気さくな先生です。本日は様々な学校長・学部長・職員が来ておりますので後程ご挨拶致します。とご挨拶されました。

そして、当日の会場であります日比谷松本楼の小坂哲郎氏(S29営・有限会社日比谷松本楼会長)がお亡くなりになり、小坂文乃氏(H2観・有限会社日比谷松本楼代表取締役社長)よりご挨拶頂きました。ずっとずっと元気におりましたが、5月23日に他界し本人の希望で親族だけの葬儀となりました。様々な方と交流があったため、6月21日木曜日にお別れの会をすることにいたしました。経済人クラブと言え父が大好きな会であったため、御礼申し上げます。とご挨拶されました。

その後、ご来賓の方々のご紹介を司会者よりさせて頂きました。さらに、新春名刺交換会以降に入会された6名の新入会員の紹介と記念撮影を行いました。

続いて、和田成史立教大学校友会会長より、戸井田前会長へ常任理事という財政の大役であり立教大学の発展のために是非がんばって頂きたい。10数年前に当時会長であられた佐藤雄二郎さんから、立教IT会を大塚裕司氏が、立教経済人クラブを和田成史氏が引き継ぎ、立教大学の為にがんばろうと言う気持ちでスタートしました。新会長を戸井田前会長と相談した結果、大塚氏をということで総会の一週間前に直接談判したこと、本日は、総会後にご予定があるということで総会のみのご出席となることを報告頂きました。また、総長は立教学院・立教大学の為に是非頑張ってください。校友会の目的に立教学院・立教大学の発展に寄与する為としっかりと書いてありますので、校友会も総長を応援してまいりますのでチャレンジしていくことを期待しております。最後に一言、第56回ホームカミングデーがあります。福引は車を2台出そうとなりました。是非広告のご協賛をお願いします。とご挨拶されました。その後乾杯のご発声を頂き懇親会をスタート致しました。松本楼の美味しい食事とお酒に加え、同友、先輩、後輩など様々なつながりの中で、今回は特に郭総長を囲んで立教の将来に向けた話に大いに花が咲きました。

最後に、井形博史副会長(S61営・三井金属アクト株式会社代表取締役社長)に郭新体制を我々経済人クラブとして支援サポート申し上げたい。今日100名以上とお集りの中でディレクションが出たわけでOB・OG・関係者一丸となって立教の発展に寄与できればと、ご挨拶と、中締め的一本締めでしていただき閉会となりました。

—村上 直人 H6立高一



定期総会講演会

総長就任にあたって

—立教大学の目指すべきVISION—

時代の先頭を走り、社会と共に成長する大学を目指して

講師：立教大学総長 郭 洋春氏

定期総会に続き、講演会の部が開催されました。今回は、本年4月より立教大学の総長に就任された郭 洋春様にお越し頂き、『総長就任にあたって 立教大学の目指すべきVISION—』と題し、郭総長のもと新しい執行部が作る、10年後、20年後、そして50年後を考えた新しい立教大学のビジョンと取り組みについてご講演を頂きました

■ 立教大学が抱える課題～取り巻く環境の変化

立教大学の現状の課題として、社会の変化と本学の体力の低下の2つが挙げられます。

1目の課題である社会の変化とは競合校の教学変革であり、これはW合格時の進学率の変化に現れています。まず立教と明治では、2009年には立教を選択する学生が69%、明治が31%でしたが、2013年に逆転し、2017年は立教35%、明治65%となっています。

また、立教と青山学院では、2009年に立教77%、青山学院23%でしたが、2017年には立教65%、青山学院35%とその差が縮まってきています。このまま手を拱いているといずれは青山学院にも逆転されてしまう可能性があります。

2つ目の課題である本学の体力の低下を計る指標として「事業活動収支差額比率」というものがあります。これは大学の経営の安定度を示す指標で、大学の自己資金が充実し経営に余裕があり、投資の余力があるかを示す指標となります。

本学の事業活動収支差額比率は、2008年には13.1%でしたが、2014年には0.3%まで落ちてしまいました。その後やや回復し2017年には4.7%となっているもののまだ低い水準にあり、将来的にはこの比率を10%に引き上げることを目標としています。

■ 改革の基本方針

このような数値を見ると、立教大学は環境の変化に対応しきれず他大学の改革に後塵を拝する状況となり、社会から見て「相対的に魅力の薄い大学」になりつつあります。

そこで、改革の土壌を育て教学を発展させる、新しい教学改革と体力面の強化を図る必要があります。

立教大学は、「教学」「財政」「組織・人事」の三位一体の改革を行い、即戦力の人材を育て、グローバル人材の輩出を図っていく必要があります。そのためには現在10ある学部の強み、独自性を生かしつつ、国際化、スポーツ、AI等社会のニーズに応える新たな教学展開が必要となります。

また、この教学展開を実現するためにも、「財政」、

「組織・人事」の改革に真正面から取り組んでいかなければなりません。

■ 新しい立教大学～中長期ビジョン

立教大学が目指す姿は、個性を生かし、先ずはアジアで際立つ大学となることです。先ずはアジアで際立つ大学となり、そして世界を目指します。そのためにはオンリーワンの領域を確立し、そこからNo.1の大学となっていきます。

新しい立教大学は、人に影響を与え、社会に影響を与え、そして世界に影響を与えるような次代の人材育成に責任を持つ大学となります。

■ 新しい立教大学～教学戦略

池袋の7学部で伝統を保ちながら、新座の3学部が社会をリードする学部・学科となるよう再編を進めていきます。

また、研究環境の整備を図るために財政力を強化していきます。先日ノーベル化学賞を受賞された白川教授が来校された際、本学の施設を高く評価され、さくらサイエンスハイスクールを本学で開催することとなりました。このように高く評価された研究施設をさらに充実させていきます。

一方で国際化についても現状分析をし、必要であれば軌道修正をしていくこととしました。TGUでは5年目の中間評価がB評価となっていましたので、計画を見直しリアリティのある人材教育を責任を持って行うよう軌道修正をしていきます。

そして、「RIKKYO Learning style」への全学的支援体制を整備し、学部の特性や学生に合わせた大学づくりを目指していきます。

■ 新しい立教大学

～財務戦略

財務戦略としては、先ず経常収支7～10%を実現し、年間40億円の新規投資財源を確保することで、緊縮財政からの脱却と財政構造改革に取り組んでいきます。これまでは財源をどう集めるかに焦点が当たっていましたが、これからは集めた財源をどう使うか

に焦点を当てていくことになります。

■ 新しい立教大学～組織・人事戦略

これまで学院や管理部門は管理機能に重点を置いていましたが、これからは支援機能に重点を置いていきます。同時に活気ある職場づくりのために抜本的な人事制度・政策改革を行い、クリエイティブなアイデアを出すことと、それをやってみてから評価すること、さらに仮に失敗しても失敗も評価するという人事政策転換のためのトータルプランを作成していきます。

そのためには、リスクを恐れず、共に励まし、称え合う精神を尊重する一方で、データの収集と分析をすることで合理的根拠に基づく意思決定をしていく必要があります。具体的データに基づき、数字を生かすことで大学の見える化を図り経営資源の「選択と集中」により、本学らしい個性化を実現することを大学運営の基本方針としていきます。

そこで、本学では、“Creative”、“Challenge”、“Change”の3Cの実行に取り組み、「できる」か「できない」かの議論ではなく、どうすればできるかという議論を進めていくことで、新しい立教大学を作っていきます。

■ 着手した改革

① 学部等設置構想検討プロジェクト

先ず4月に学部等設置構想検討プロジェクトを設置し、現在は構想検討ワーキンググループとして活動しています。その中から早速取り組むことを前提として検討を開始しています。

② 新座キャンパス活性化プロジェクト

新座の施設をより充実させることで、新座キャンパスを1日中居たい、365日過ごしたいキャンパスとして活性化させる「滞在型キャンパス」形成に向けて取り組んでいくことを目指し発足させました。

立教大学は新座キャンパスが活性化してこそ、池袋キャンパスがさらに輝くものだと考えています。

③ 社会連携教育推進協議会の設置

社会連携、地域連携がこれまでの大学の連携でしたが、さらに企業連携を加えていくことによって+αを生み出していくために設置しました。

④ 陸前高田グローバルキャンパスの開講

岩手大学、陸前高田市と協力し池袋、新座に続く第三のキャンパスとして2017年に開講しました。

残念ながら東日本大震災の被災地の復興はまだ大きくは進んでおらず、定住人口は増えていません。しかし、賑わいを創出することで交流人口は増やすことができます。地域を活性化させ、まず交流人口を増やすことから復興に取り組むという新しい復興のモデルを陸前高田市で作っていきます。この取り組みの一つとして、来年の3月に陸前高田グローバルキャンパスにおいて学園祭を開催することとしています。

⑤ 体育会活性化検討グループの設置

現在、本学の体育会には20,000人の全学生の実に2,500人以上が参加し活動しています。今後はさらなる支援をするために、アスリート選抜入試制度の見直しや、各部の特性に合わせた支援を行っていきます。さらに2019年に発足する「日本版NCAA構想」にも対応していきます。

⑥ 池袋キャンパス100年事業

今年度本学は池袋キャンパス移転100周年になります。この記念行事の一環として、徳光和夫氏、関口宏氏、みのもんだ氏、古舘伊知郎氏の4人の立教OBアナウンサーが一堂に会して立教を語る記念

講演会を実施する予定となっています。

■改革への期待～編集者より

4月10日の日経新聞に、各大学の学長の入学式での祝辞の比較が掲載されました。郭総長の祝辞の中から、「大学は人生の構想を磨く場であり、世界を動かす主役になるように」との言葉が採り上げられました。また、5月26日の朝日新聞でも立教大学の「おとなしい学生のイメージ転換を目指す」というタイトルで記事が掲載されています。新しい立教大学を作り上げていく郭総長の取り組み姿勢にマスコミも注目しており、改革への期待が高まります。

—吉原 伸隆 H4営—



戸井田 前会長とのインタビュー

が素晴らしいと思わざるを得ません。立教も後塵を拝するわけにはいきません。表面上は淡々と、心は熱く立教の為に引き続き頑張っていきたいと思っています。

【立教経済人クラブについて】

常々当クラブの会長は現役の経営者の方になっていただきたいと強く思っていました。そういう意味では、今般大塚会長が大変お忙しいお立場であるにもかかわらず、お引き受け頂いたことに深く感謝申し上げます。

私の会長就任時に、会の活動を通じ、経済界で活躍する校友を一人でも増やすことを目標と致しました。そのためにも経済人クラブメンバー相互の活きた情報交換、人脈ネットワークづくりを活発化させ、新しい仕組み、流れを生み出すことにチャレンジしてきた次第です。その結果会員相互のつながりを生み、学生達のバックアップになると信じているからです。具体的には、同志社大学とのつながりが生まれたのもその成果かと思っています。しかしながら、もっと上場企業の方も含め多くの方に参加頂ける余地があったと心残りもございます。

【今後の抱負】

「時代の先頭を走る立教大学になる。」これは郭総長講演での冒頭の抱負の言葉です。これを実現することが私の最後の貢献だと思っています。「時代の先頭を走る立教大学となる」ためには校友会・経済人クラブの更なる連携強化が必要です。OBの皆さんと学生との交流の場を増やすことで、国際化推進、キャリア支援、就職支援等の活性化を図らなければならないと思います。

最近の学生の傾向として外部志向が弱い面があると思います。アグレッシブさが諸先輩から見れば足りないかもしれません。ただ、個々の素質は大変高いものがあります。我々が（経済人クラブが）もっと学生に刺激を与えていくことで、彼らはそれに応え、更に成長していくと思います。

最後に「なりたくなかったポストが少ない人生でしたが、唯一なりたくなかったポストが立教経済人クラブの会長だ」と書いておいてください(笑)

—徳澄 範光 S62数—

—村上 直人 H6立高一—

2018年6月の総会におきまして、立教経済人クラブの会長職を退任させて頂きました。1年と短い期間でしたが、会員の皆様にはご協力、ご支援頂き誠にありがとうございました。日産自動車、ファルテック再建、そして立教経済人クラブの会長となり「さあこれから」と言うときに立教学院の常務理事になるという、自の人生ながら不思議なものを感じております。

本年6月当クラブ総会にて郭総長が講演で話されておりましたが、以前は立教と明治で併願した際に7割は立教に入学していました。ここ4、5年で明治に逆転されています。明治のブランド戦略

ウェルカムナイト

2018年6月20日(水)19:00より、「日比谷松本楼 立教大学セントポールズ会館店」にて本年度第1回ウェルカムナイトが開催されました。ウェルカムナイトは、新入会員になった方を中心に、新入会員同士や既存会員との交流を深める懇親会です。

梅雨時の足元の悪い中ではありましたが、新入会員6名を囲み会員10名の計16名の参加となりました。

開会の挨拶の後、戸井田和彦最高顧問に乾杯のご発声をいただき、懇親会がスタートいたしました。

松本楼の素晴らしい食事を楽しみながら、和やかな歓談の時間となりました。

恒例の自己紹介のコーナーでは、立教大学への想い・思い出やビジネスについて等幅広くお話いただき、参加者一人ひとりのお人柄に触れることが出来ました。

ウェルカムナイトはアットホームな雰囲気で開催されることもあり、会員同士の深いコミュニケーションがとれる良き機会と存じます。

本年度末頃にも第2回ウェルカムナイトを企画しておりますので、皆様の参加をお待ちいたしております。

—小田切 理紗 H21法—



ごあいさつ

立教経済人クラブ会長 大塚裕司



このたび、立教経済人クラブの会長にご選任いただきました大塚でございます。会長という大役を仰せつかり、光栄に思うと同時に責任の重さに身が引き締まる思いです。

前会長である戸井田さんには、1年間強いリーダーシップで、立教経済人クラブに多大なる貢献をいただきました。数々のご活躍に対し、心から敬意と謝意を表するとともにこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

私もお引き受けした以上、少しでも当会発展のお役に立てるよう頑張る所存です。

他校には、このような経済人の集まりの会は少ないように聞きます。それだけに、この会のメンバーになる方にとってより価値ある有意義なものにせねばと責任を感じております。

【ITとの融合】

もともとは佐藤雄二郎さんから「経済人クラブ」は和田さんが、「IT会」は私が引き継いだ経緯があります。今回、立教経済人クラブ会長に選任され、今までの当クラブの流れを踏襲しながら、私には何が出来るかを考え出来ることを着実にやっていきたいと思っています。

例えば、ITと言えどどの産業でも密接なかわりあいを持っています。そして、システム化は企業の課題となることも多いと思います。当会の会長として、IT業界に関わる立場として勉強会を含めどのような情報提供が出来るかも考えていきたいと思っています。

【経済人クラブについて】

小学校から大学まで16年立教と関わってまいりました。今の自分があるのは立教の持ち味が生きているとも考えていますので、お役に立つことは積極的に行っていきたいと考えています。

そして立教の良さと言えば自由の学府。その立教の良さを当会に活かしていきたいと思っています。「経済人クラブ」とはいえ、仕事だけ、仕事ありきでのお付き合いは立教らしくないと思います。お互い

が知り合い親交を深めた結果、仕事にも活きるというのが理想だと思います。立教の良さを感じながら仕事も含めて自分を見つめなおすような会でありたい。それが立教らしさだと考えています。

【全員参加型の運営を目指して】

AI、IOTなど情報技術の発展により、働き方改革、省人化など私たちを取り巻く環境は大きく変わつつあります。こうした変化をチャンスと捉え、より強固な企業体質を作り上げるとともに、各企業の創意工夫により、更なる成長戦略を描いていく必要があります。このような時代こそ業種や世代を超えた、情報・コミュニケーションが重要となってきます。

当クラブは、高い専門性や経験、幅広い人脈を持った立教大学・立教学院校友会による、会員相互の啓発・支援・親睦を提供する組織として広く認知されています。

また、産学連携、講演会等の開催や、多様性を軸とした全員参加型の運営を通して、活きた情報交換、人脈ネットワークづくりを活発に行い、新しい取り組み、流れを生み出していくことにチャレンジして参りたいと思います。

是非とも皆さまの積極的なご参加をお願い致します。 一村上 直人 H6立高一

第1回理事会



さる2018年5月30日、本年度立教経済人クラブ第一回理事会が新橋の新橋亭(取締役会長:呉 東富氏 昭41・営)にて開催されました。

18時より理事会を開始。総会に向けて、昨年度の事業報告・決算報告ならびに、事業家計画・予算案を上程いたしました。本年度は改選期のため役員改選についても上程いたしました。昨年、会長に就任した戸井田和彦氏(昭50・営)が立教学院の常務理事に就任されることになり、新たな当クラブ会長に株式会社大塚商会代表取締役社長大塚裕司氏(昭51・営)が就任する案を始め、各委員長の改選についてご審議いただきました。各理事の皆様からご意見並びにご助言を賜り、上程内容についてご承認いただきました。

その後懇親会へと移り今回も新橋亭 呉先輩のお計らいによりおいしい料理に舌鼓をうちました。懇親会途中には、立教大学校友会会長でもあり、当クラブ最高顧問和田成史氏(昭50・営)にもご参加いただき、今回の大塚会長就任について補足もいただきました。諸先輩方の近況、旧委員長の挨拶、新委員長の紹介を行い、定刻21時に散会となりました。引き続き各委員会の活動にご支援とご指導をお願いいたします。

一品川 高穂 H8経一

建学の精神をたづねて

知育・徳育・体育 と三位一体と リベラルアーツの関係

神保町シンクタンク
黒田裕治(78年 法学部卒)

プロフィール
1955年7月4日 広島県尾道市 生まれ
立教高等学校 立教大学を経て
近畿日本ツーリスト株式会社に勤務
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、
現 神保町シンクタンクを主宰

6月17日のアメリカンフットボール同立戦はとっても
素敵な対戦でした。試合終了後、それぞれのキャプ
テンは相手陣地に駆け寄り応援席に座る大学OB、
および参観者に向かって最上級の礼を尽くし(90度
のお辞儀)本日応援に来てくれたことに対し、こちら
に真直ぐに伝わるハキハキとした大きな声で謝辞を
伝えてくれました。実に気持ちのいい連中でした。
きっと母校アメフトキャプテンも同志社大学OB席の
皆さんに同じように謝意を伝えたのだらうと思うとな
んだかこちらまで清々しい気持ちになりますね。

さて、「知育」「徳育」「体育」という言葉をご存知
かと思いますが、大学における「体育」はリベラル
アーツ教育カリキュラムに当てはめてみると一般教
養の一部としての体育のカリキュラムがあるくらいか
なと認識してしましますが、実は体育会を始めとする
様々なクラブ活動において「体育」は実践されてい
ると考えられます。つまり、体育会の活動は常に大
学側と連携しており、そこには自主性とともに教育理
念(PRO DEO ET PATRIA)という言葉「神と国
のために」というラテン語で、「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」を実践
する場であると教えられています。

日本では スпенサー(Herbert Spencer, 1820
年4月27日 - 1903年12月8日 イギリスの哲学者、
社会学者、倫理学者)の「教育論」で方法論的に
「知育」「徳育」「体育」として広く知られるに至ったと
いうことです。スเปนサーは1851年に『社会静学』
を、1852年に『発達仮説』(The Developmental
Hypothesis)を、1855年に『心理学原理』を出版し
ました。それから『社会学原理』『倫理学原理』を含
む『総合哲学体系』を35年かけて完成させるなど、
多くの著作を出版。1880～90年代の明治期日本で
は、スเปนサーの著作が数多く翻訳されました。これ
はまさしく、立教大学、同志社大学等ミッション系大
学の創立時期とリンクして来ますね。

三位一体という考え方(三位一体は、キリスト教
において「父」と「子」と「聖霊」が「一体」であるとする
教え。)でもリベラルアーツという考え方でもいいと
思いますが、今回は「知育・徳育・体育」で進めて参
ります。

さて、日本(明治政府)では スเปนサーの影響も
あり、文部科学省のHPを見ると、その中でも「徳育」
は、「社会(その国、その時代)が理想とする人間像
を目指して行われる人格形成」の営みであり、幅広



激しい戦いぶりに感動！

い知識と教養、豊かな情操と道徳心、健やかな身体
をはぐくむという、知・徳・体の調和ある人格の完成を
目指す教育の根幹を担うものであると言える。

学習指導要領では、学校の教育活動全体を通
じて道徳教育を行うことを定めており、その指導内
容は、「主として自分自身に関すること」「主として他
のひとのかかわりに関すること」

「主として自然や崇高なものとかかわりに関する
こと」「主として集団や社会とかかわりに関すること」
の4つの視点に分けて示しています。

徳育を通じて、身につけることが求められる資質・
能力としては、「主として自分自身に関すること」の観
点からは、自己の生き方を探究する力の育成や、生
活習慣の確立がある。

「主として他のひととかかわりに関すること」、ある
いは、「主として集団や社会とかかわりに関すること」
の観点からは、人間関係能力や社会の一員として
の責任感の育成、規範意識の醸成等がある。

「主として自然や崇高なものとかかわりに関する
こと」の観点からは、自然に親しみ、美しいものに感
動することや人間の力を超えたものに畏敬の念をも
つ機会を通じた情操の涵養等がある。

これらすべては、子どもが、知ること・判断すること
(知的側面)、信じること・感じること(情意的側面)
を通じて、行うこと(行動実践的側面)につながるも
のでなければならない。

すなわち、人が、他者への思いやりの心をはぐくむ
ことを通じて徳を身につけ、道徳的諸価値を内面に
おいて統合し、生涯にわたり自己の人生を主体的に

切り開くことができることが、徳育を通じて身につける
ことが期待される資質・能力である。こうした徳育が
もたらす資質や能力は、基本的には、個人の内面
のものであるが、人が社会の中で生きていくという社
会的存在であるからこそ必要なものでもある。生まれ
たばかりの子どもは、環境に適応し、自らの感覚を
発達させながら、心身の機能を高めていく～という
見解が示されています。

「徳育」の扱いは 例えば 立教大学ではキリ
スト教主義に基づく全人格教育という考え方でしま
した。同志社大学では「キリスト教主義、自由主義、
国際主義に基づく良心教育」と「知育、体育、霊育
による全人格教育」という言葉で表せます。この2つ
の教育理念は共に「リベラルアーツ」につながってい
ます。奇しくも明治7年と8年に日本の関東と関西に
建学の志を同じくする2つの私学が誕生しました。
～前回の連載で触れました～

再度考察しますが「自由の学府」を謳う立教大学
では、「学問=すなわち知力」からの「自由=すなわ
ち、知識に偏らず、真理を探究する立ち位置」をも含
んでいることを明記します。「徳育」にあたるものの扱
いですが、立教や同志社では3つが並列ではなく、
全体をカバーする位置が与えられています。

それと比較して、日本の教育での「徳育」は道徳
的価値と似ていますね。道徳については、別の機会
に紐解くことにします。なぜなら、徳は 儒学 朱子
学 陽明学等大変複雑な体系が時代性の影響を
反映しながら進化して来たからです。自由という考
え方が違うように感じます。

ここからは大変面白い視点として推理するものですが、「体育」の扱いを巡って様々な動きがその後の1世紀半(明治150年)に大きな影を落としていたのではないと思う次第。

明治政府は、「富国強兵」「殖産興業」を進めるために「体育」をうまく解釈したのではないのでしょうか?

さて、関連した面白い言い回しがあります。一般にはユウエナリスの言葉「健全なる精神は健全なる身体に宿る」(A sound mind in a sound body)と訳され「身体が健全ならば精神も自ずと健全になる」という意味の慣用句として定着しているものがあります。これは本来誤用であり、ユウエナリスの主張とは全く違うものであることが解明されています。

すなわち、幸福を得るため多くの人が神に祈るであろう事柄(富・地位・才能・栄光・長寿・美貌)を一つ一つ挙げ、いずれも身の破滅に繋がるので願い事はするべきではないと戒めている詩で、ユウエナリスはこの詩の中で、もし祈るとすれば「健やかな身体に健やかな魂が願われるべきである」(It is to be prayed that the mind be sound in a sound body)と語っており、これが本来の出典の意味だそうです。

近世になって世界規模の大戦が始まるとナチス・ドイツを始めとする各国はスローガンとして「健全なる精神は健全なる身体に」を掲げ、さも身体を鍛えることによってのみ健全な精神が得られるかのような言葉へ恣意的に改竄しながら、軍国主義を推し進めました。その結果、本来の意味は忘れ去られ、戦後

教育などでも誤った意味で広まることとなりました。このような誤用に基づいたスローガンは現在でも世界各国の軍隊やスポーツ業界を始めとする体育会系分野において深く根付いているのではないかと思います。現在は冷戦も終わり軍国主義を掲げる必要がなくなったことや、解釈によっては身体障害者への差別用語にもなりかねないことから、多くの国では身体と精神の密接な関係とバランスを表す言葉として使われています。

今回の結論

さて、同立戦のアメリカンフットボール戦の話から始まったのでありますが、「体育」は学びの大切な要素として現在は、学習の効率や脳の発達(脳科学)の観点からも「知育」と「体育」そしてそれらを全宇宙的な視点からバランスを考え、コントロールができる「精神」として3要素のバランスを取る役割としての「3つ目のもの」が注目されています。同立戦では積み上げられた経験値により鍛え上げた「ボディ=体力」が「知的な戦略」としてぶつかり合って、観客を魅了する素晴らしい戦いが繰り広げられました。そして、ゲーム後はノーサイド!!!互いに相手の行動を讃え合い、応援の人々に謝意を

述べ、あれだけ戦ったフィールドには全て感謝の心だけが溢れていました。今回のアメフト同立戦のちょっと前に、学生アメフトスポーツ界を揺るがす大事件が世間を騒がせました。「体育」すなわちスポーツを行う「意義」と「目的」が全く見失われたことが原因だったのではないのでしょうか? 「体育」が「健全なる～あのユウエナリス誤解釈路線」の延長上にあったのでしょうか。今年は奇しくも明治150年!少なくとも、学生スポーツの問題であるからには我々の建学の精神に立ち返って再構築してもらいたいものです。(どの大学がどんな建学の精神かを云々するのではなく、学生スポーツという「体育」全体のこととして考えて見たいですね)

【参考文献】 文部科学省HP、立教大学HP、同志社大学HP、Wikipedia



現役選手、OB応援席に向かって丁寧な挨拶をいただきました。

世代を超えた勉強会



2018年2月20日(火)「世代を超えた勉強会」が新橋亭において開催されました。今回は、元国税調査官で税理士の牧野義博様にお話し頂きました。前半は法人税や所得税の一般的な注意事項や税務調査のときに調査官が注目する点など、後半は牧野様の調査官自体の様々な体験談をお話し頂きました。

前半の税務調査について、調査官が注目する経理処理として仮払いや仮受け、多額の未払金、海外取引などは注意したほうがよいとお話しがありました。また、国税通則法の改正により、現場の

調査官も上司の決済が下りないと調査が終われないなど、調査官側の苦労話もお聞きできました。また、マイナンバー制度についても、今後銀行口座への紐付けが予定されているとのことでした。

後半は査察部(いわゆるマルサ)についてで、一般的にはあまり関わることはない?ですが、査察部の組織から、情報収集から強制捜査までの裏話まで貴重なお話しが聞けました。時には反社会勢力等との対応など、国税調査官も命がけで、聞いているだけでもハラハラする内容でした。

一飯泉 斉 H10法一

立教経済人クラブ各委員会より

総務委員会

今年度より、前任の湯浅先輩より総務委員長を引き継ぎました、H8卒の品川高穂と申します。総務委員会の主な事業は、新春名刺交換会と、定期総会の運営、そして会員名簿の作成・発行です。大学、校友会、立教経済人クラブも会長が交替し、新しい体制となりました。そうした中で、経済人クラブの大きなイベントである、総会、名刺交換会をしっかりと運営し会員が肩肘張らない雰囲気で交流できる

ようにしてまいりたいと思っております。

また、昨今の時代の流れで、会員名簿も大きな転換期を迎えております。皆様のご意見を賜りながらよりよいものにしていきたいと思っております。まだまだ、わからないことが多々あり、皆様にはご迷惑をおかけすることがあると思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

一品川 高穂 H8経一

財務委員会

この度、財務委員長に就任いたしました平成10年法学部法学科卒業の飯泉斉と申します。
守屋前財務委員長の下で5年間副委員長として活動してきました。財務委員は事業に直接関わることは少ないですが、これまで通り

財務に関する情報を分かりやすく、かつ、スピーディに提供していきたいと思えます。諸先輩方が築いてきた立教経済人クラブをこれまでに増して盛り立てていきたいと思えます。引き続きご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

―飯泉 斉 H10法一

拡大委員会

本年度、拡大委員長を拝命しました小田切理紗と申します。
先輩各位ならびに皆様のご助言、ご協力をおおぎ、立教経済人クラブの拡大に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
IT技術の進歩等により利便性は高まりましたが、どこかコミュニケーションの希薄化を感じられるようになった昨今。そんな時代の変

化の中で変わらずに、職業・年齢・性別等の垣根を越え人と人のつながり・絆を深めること、とても大切に感じております。
絆を大切に、立教のリベラルアーツ教育のもとで育まれた私たちにしかできない確かなネットワークを広げていきたいと思っております。
今後、皆様のご鞭撻とご協力を切にお願いし、挨拶に代えさせていただきます。

―小田切 理紗 H21法一

スポーツ委員会

スポーツ委員長をしております、長倉 一裕です。1984年、法学部法学科卒です。年2回、7月と12月に立教経済人クラブゴルフ会を開催しております。
7月の会は名門ゴルフ場の東京ゴルフ倶楽部での開催で、12月の会は毎回違うコースで行っております。東京ゴルフ倶楽部が埼玉県なので千葉県、神奈川県が多いですね。これからもいろいろなコースで開催していきたいと思えます。7月は梅雨明け後の日取りが

多く、とても暑い中での開催となります。それでも毎回30名前後のご参加をいただいております。たいへんありがとうございます。
それに比べ、12月は20名より少ない場合が多いので少し寂しく思えます。より楽しい会を目指し、もっともっと賑やかにしていきたいです。毎回土曜日の開催が多いですが、曜日の変化等工夫をしてより多くの方にご参加頂けるようにしていきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

―長倉 一裕 S59法一

会報委員会

大学の総長、当会の会長も今年度より代わりました。
運営委員会も一世代若返りました。
会報委員会としては、若い会員が積極的に会に参加したくなるよう、新たな紙面作りにも取り組んでいきたいと思っております。
『会員が増える=若い会員が増える=経済人クラブが活気付く』

皆さまからの積極的な出稿、投稿をお待ちしております。
また、会報制作に関わってみたい方、奮ってご参加ください。経済人クラブに溶け込むきっかけになること請けあいます。

―徳澄 範光 S62数一

学院担当委員会

経済人クラブ会員の皆様、初めまして。私、平成12年経済学部経営学科卒業の宮本と申します。
この度、学院担当委員長を拝命させていただきました。至らぬところが多々あるかと思いますが、微力ながら大塚会長を支えつつ、共

に立教学院及び経済人クラブの発展に寄与していきたいと思っておりますので、何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

―宮本 英一 H12営一

産学連携委員会

昨年度に引き続き産学連携委員長を拝命致しましたH7営卒の林雄太です。例年、経済学部三谷教授正科にて学生のインターンシップを経済人クラブ会員のお会社で受け入れていただくアレンジメントをさせていただいております。
昨年は13人の学生さんを11社で、本年度は7名の学生受け入れを6月末までをお願いさせていただきました。
今やほとんどの学生が就職活動前に行うインターンシップ。数多くのインターンシップが各学部学科やキャリアセンター(就職部)、各企

業独自で主催で開催されておりますが、売手市場の今、学生の取り組みは就活用実績付けなど様々な中、正科でのインターンシップは本当に真面目な学生さんが多いとの事です。
毎年会員各会社様には格段のご理解をいただき、学部長、また今回ご就任の郭総長にも皆様のご協力に感謝いただいております。
これからも未来ある学生さんに先輩として何らかのお手伝いをと考えております。皆様のご協力、これからもよろしくお願い致します。

―林 雄太 H7営一

活性化委員会

立教経済人クラブは、会員相互の親睦を図り、母校の発展と産業経済界の発展に貢献することを目的としています。
活性化委員会では、グルメ会・女子会・ウェルカムナイト・クリスマスパーティ・世代を超えた勉強会といった企画を担当しております。
昨年のクリスマスパーティは80名を超える会員の皆さまとゲストにお越しいただき、会場が少し手狭になってしまったという反省はござ

いますが、、とても盛況な会となりました。
他にも様々な事業があり、「親睦」「相互啓発」「人脈」を切り口に、会員の皆さまが満足頂けるような企画を考え、立教経済人クラブの活性化をしていきたいと思っています。
皆様のご参加をお待ちしております。

―二瓶 豊 H10法一

新しく会員になられた方々 (敬称略)

岡本 章吾 平成18経
(株)S-Style
代表取締役
〒171-0044 豊島区千早
TEL:090-2553-1077
E-Mail:info@s-style-fashion.com
小売業

神谷 武志 平成10産
(株)伸和熱処理
専務取締役
〒351-0014 朝霞市膝折町4-12-63
TEL:048-464-5771
FAX:048-464-5745
E-Mail:t-kamiya@sinwaht.co.jp
金属熱処理・表面処理

栗木 健一 平成3産
(株)ジェイアール東日本ビルディング
執行役員
〒151-0053 渋谷区代々木2丁目7-7
南新宿277ビル2F
E-Mail:kuruki@jebl.co.jp
不動産

佐藤 史訓 平成18営
佐藤金属(株)
〒101-8559 千代田区神田須田町2-13
TEL:03-3253-7464
FAX:03-3253-1654
E-Mail:fsato@sato-mtl.co.jp
金属製品商社

嶋田 一志 平成16経
(株)エントランス (株)シマダ
代表取締役
TEL:04-2931-0402
E-Mail:top@entmail.xyz
リラクゼーション 不動産管理

豊崎 勝啓 平成19営
(株)レアリゼ
事業戦略室 室長
〒108-0073 港区三田1-2-22東洋ビル6F
E-Mail:k-toyosaki@realiser.co.jp
企業研修 組織コンサルティング

兵庫 真帆子 平成1教
(株)小学館
女性メディア局チーフプロデューサー
〒101-8001 千代田区一ツ橋2-3-1
TEL:03-3230-5864
FAX:03-3234-7932
E-Mail:hyogo809@mail.shogakukan.co.jp
出版

松藤 悠 平成14法
松藤公認会計士事務所
代表
〒105-0013 港区浜松町1-2-17-904
TEL:03-3432-5371
E-Mail:yu.matsufuji@cpaym.com
会計事務所版

宮澤 伸英 平成8経
宮澤商事株式会社
代表取締役
〒171-0014 豊島区池袋4-36-10
TEL:03-3984-5661
FAX:03-3988-7364
E-Mail:nobu@miyazawa-pipe.co.jp
鉄鋼販売

「今こそ生み出そう独自の型を」そして「出でよ型破り」 「ジャパン・フットボール」

日本の夜を熱くしたロシアWC。マスコミの予想を覆し日本はグループステージを突破した。そして臨んだベルギーとの決勝トーナメント。体格もスピードも相手が一枚上。しかしサッカーは番狂わせのスポーツ。心の底で日本の勝利を信じた。

その中で柴崎選手の絶妙のスルーパス。それを原口選手がこしかなないというところに関心した。そして乾選手の南米選手ばりのミドルシュートが決まった。守備も連動して怪物たちを封じた。本当に限界まで走った。だからこそ2-0になった時、まず本田選手を入れるなど、日本が先に動いていた。それだけが悔やまれる。

しかし日本人でもやれる。1人対1人で勝てる。世界で通用する。それを確信した。多くの日本選手が海外のビッグクラブで活躍しているのだから。中田英寿氏がペルージャに行って20年。選手は世界で多くを吸収した。代表チームもジーコやオシム監督らの巨匠から多くを学んだ。おかげで世界標準を知ることができた。

これまで日本は本当によく学んだ。そろそろ次は独自のフットボールを生み出す時である。吸収する

だけでは1番になれない。何か新しいものを生み出さない限り。それはスポーツでも企業でも同じこと。日本には良いお手本がある。世界ナンバー1を取った日本のスポーツや企業から学ぼう。身近には女子サッカーも。企業ならトヨタを始めお手本はいくらでもある。

恒例の代表監督選びが始まった。いくつかのマスコミは西野監督続投と打ち上げる。いつもながら勝てば官軍的な報道には呆れる。一方に海外のビッグネームの羅列も。協会では早急に動いている。

急ぐ必要はない。今こそ今までの20年を振り返り、日本の強みと弱みを徹底的に洗い出し、日本独自の型を生み出そう。その上で進むべき道を公に示せ。そうすれば、選手は迷いなく切磋琢磨できるはずだ。そんな中から将来、これまでの型を破るような選手が現れたら、その時こそ日本が世界一になるチャンスである。

昭和58年社会学部産業関係学科卒
日経読み方アドバイザー安尾圭司
keiji.yasuo@nikkeimp.co.jp

2018年度 事業計画書

9月 19日	女子会	
10月 3日	朝食勉強会	
10月 17日	グルメ会	
10月 23日	理事会	新橋亭
11月 21日	ウェルカムナイト	
12月 2日	第74回ゴルフ大会	
12月 11日	クリスマスパーティー	

編集後記

ワールドカップサッカー開幕2ヶ月余前にハリルホジッチ監督電撃解任。

6月中旬いざ開催。日本の前評判は低く、予選通過は難しいと世間は見ていたと思う。

蓋を開けてみれば、予選でコロンビアを破る大金星に、本選では強豪ベルギー相手に2点先制。結果は承知の通り逆転負けではあったが、日本中が沸きベスト16で凱旋帰国。

監督解任は、立教大学とも縁のある田嶋幸三会長の決断。結果が全ての勝負の世界、西野監督の選手とのコミュニケーションを重視したムード作りと、采配と、運とどれが欠けても予選通過は難しい紙一重の世界だったと思う。ポーランド戦だって、『もしセネガルがコロンビアに追いついていたら・・・』とこれも大きな賭けだった。これだから血湧き肉躍る真剣勝負の世界は面白い!田嶋先生が実は一番ホッとしているのではと思ってしまふ。私が在学中に体育の授業でお世話になり、兄がサッカー部だった事もあり、サッカー部のコーチとして兄を通して接する事が出来たご縁に感謝!

—神津 港人 H4営—



Facebook で、立教経済人クラブのグループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿してください。